

令和7年度

全国学力・学習状況調査結果報告【概要版】

印西市 小学校・中学校



いんざい君©2011 Inzai City

印西市教育委員会

印西市教育センター

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査を実施した児童生徒数（印西市）

小学校第6学年・・・1, 179名
中学校第3学年・・・ 998名

(3) 調査事項及び手法

①児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査〔国語、算数・数学、理科〕

国語、算数・数学、理科はそれぞれ次の（ア）と（イ）を一体的に出題。

- （ア）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- （イ）知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

イ 質問調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査を実施。

②学校に対する質問調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査を実施。

(4) 調査実施日

令和7年4月17日（木）

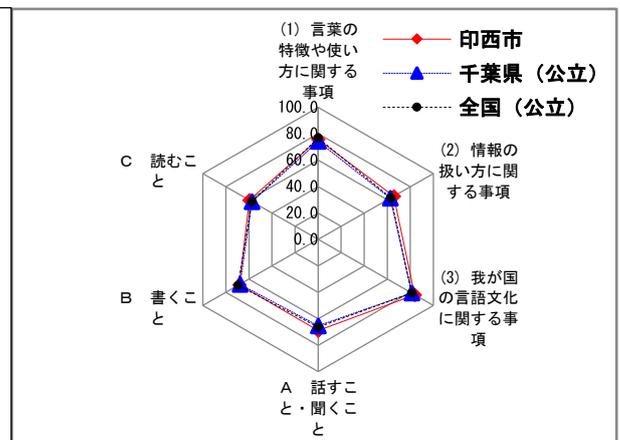
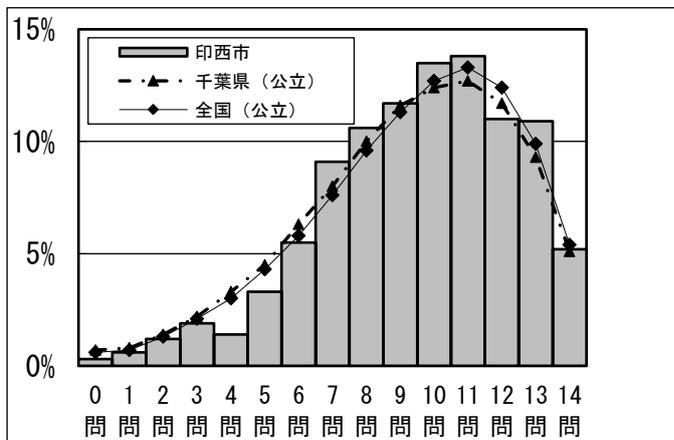
※中学校理科については、4月14日（月）～17日（木）の期間に実施。

2 小学校調査

(1) 教科に関する調査【全国・千葉県との比較】

【国語】集計結果

対象児童数		印西市教育委員会	千葉県（公立）	全国（公立）		
		1,175	46,482	936,137		
分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（％）			
			印西市	千葉県（公立）	全国（公立）	
全体						
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	75.7	74.2	76.9
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	65.6	62.6	63.1
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	83.7	81.2	81.2
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	68.9	65.3	66.3
		B 書くこと	3	68.3	67.7	69.5
評価の観点	C 読むこと	4	59.5	57.4	57.5	
	知識・技能	4	75.2	73.1	74.5	
	思考・判断・表現	10	65.0	62.9	63.8	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	9	66.8	64.3	64.7	
	短答式	3	79.1	76.7	78.5	
	記述式	2	55.7	56.1	58.8	



【国語】考察

・本市の平均正答率は68％で、県・全国平均をいずれも上回っており、全体として学力は安定しているといえる。領域の「情報の扱い方」や「我が国の言語文化」に関する項目では高い正答率を示し、情報や言語文化への理解が十分に身に付いている様子がうかがえる。

・「話すこと・聞くこと」領域では、県・全国平均を上回り、話の内容把握や話し手の考えと比較して自分の考えをまとめる力に一定の成果が見られた。日常的な言語活動の積み重ねが、聞き取る力や考えを整理する力の育成につながっていると考えられる。

・「書くこと」では、図表を用いて考えを分かりやすく表現する問題で一定の成果が見られた一方、記述式問題では全国を下回っており、目的や意図に応じて文章量や内容を調整しながら表現する力に課題が残る。

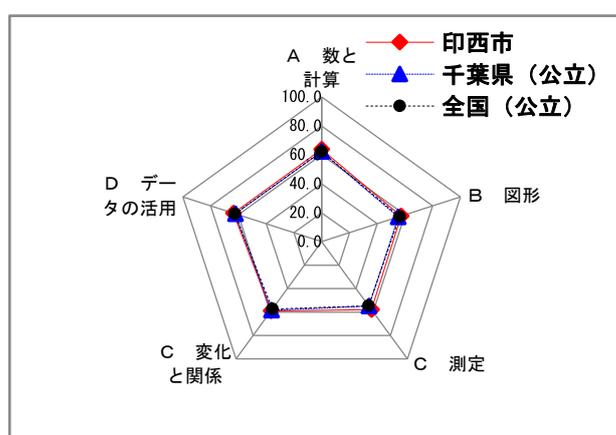
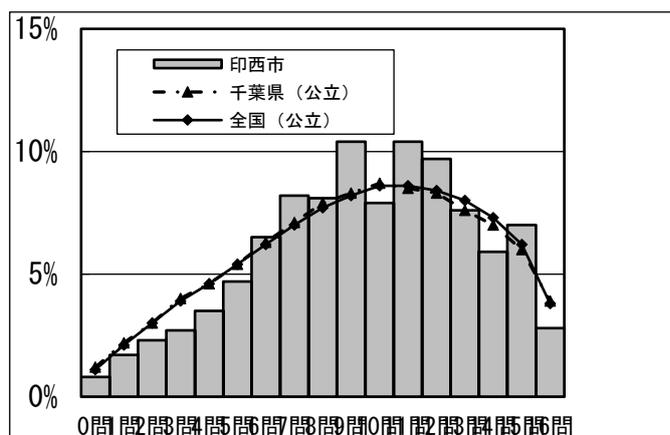
・「読むこと」領域は、県・全国平均を上回っているものの、文章全体の構成や要旨を捉える問題、文章と図表を関連付けて必要な情報を見付ける問題では正答率が低く、文章の内容を多面的に捉え、情報同士の関係を整理・統合して理解する力の向上が求められる。

・問題形式別では、選択式・短答式で高い正答率を示しており、基礎的な知識・技能は概ね定着している。一方、記述式問題では全国平均を下回っており、自分の考えを根拠に基づいて文章で表現する力の育成が今後の課題である。

・評価観点別では「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに全国平均をやや上回る程度にとどまっている。今後は、読解や対話、記述を関連付けた学習活動を通して、身に付けた知識を活用し、考えを深めて表現する力を一層高めていく必要がある。

【算数】集計結果

対象児童数		印西市教育委員会	千葉県（公立）	全国（公立）	
		1,178	46,501	936,399	
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			印西市	千葉県（公立）	全国（公立）
全体		16	59	58	58.0
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	63.8	62.2	62.3
	B 図形	4	57.2	55.2	56.2
	C 測定	2	58.0	54.9	54.8
	C 変化と関係	3	59.1	58.5	57.5
	D データの活用	5	63.6	62.3	62.6
評価の観点	知識・技能	9	66.9	64.8	65.5
	思考・判断・表現	7	49.2	48.3	48.3
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	68.0	67.3	67.2
	短答式	6	66.1	63.4	64.0
	記述式	4	35.4	34.2	34.9



【算数】考察

・本市の平均正率は、県・全国平均をいずれも上回っており、全体として学力は良好な水準にある。学習指導要領の領域別に見ても、「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」のすべての領域において、県・全国平均を上回る結果となっており、特定の領域に偏ることなく、バランスの取れた理解が身に付いていることがうかがえる。

・問題形式別では、選択式および短答式の問題において高い正答率を示しており、基礎的な知識・技能を活用して答えを導く力が定着していると考えられる。資料の読み取りや数量の関係を捉える問題においても、安定した成果が見られた。

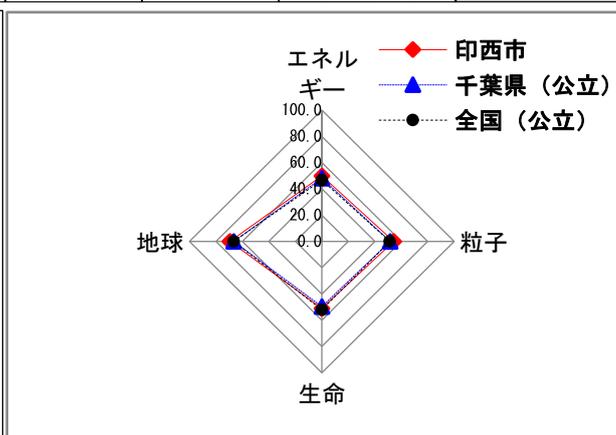
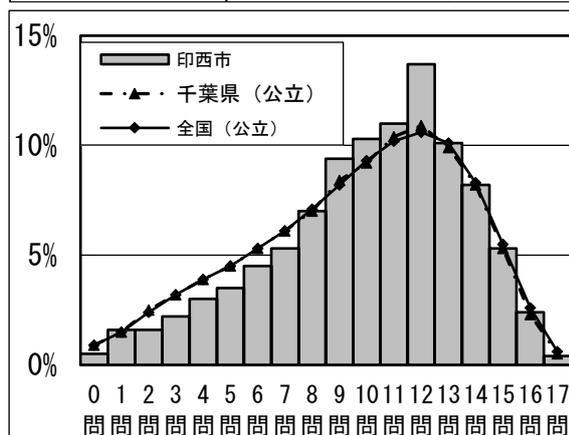
・一方で、記述式問題の正答率は県・全国と同様に低い傾向が見られ、考え方や理由を式や言葉で説明する力には課題が残る。特に、分数の意味の説明や、目的に応じた資料の選択理由を記述する問題では、理解を表現に結び付けることが十分とはいえない状況である。

・問題別に見ると、図形の性質の理解や数量の変化を捉える問題では一定の成果が見られるものの、その考え方を言語化する場面ですまづく児童が多い。これは、理解そのものよりも、思考の過程を整理し表現する経験が不足していることが要因の一つと考えられる。

・総合的に見ると、本市の児童は基礎的な知識・技能や数量関係の理解が全体的に身に付いている一方で、思考・判断の過程を表現する力に課題がある。今後は、全領域において、解き方や理由を説明する活動を授業の中に意図的に取り入れ、記述力や表現力の育成を図っていくことが重要である。

【理科】集計結果

対象児童数		印西市教育委員会	千葉県（公立）	全国（公立）		
		1,179	46,552	936,576		
分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（％）			
			印西市	千葉県（公立）	全国（公立）	
全体		17	59	57	57.1	
学習指導要領の区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	49.9	48.2	46.7
		「粒子」を柱とする領域	6	54.3	51.6	51.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	4	51.0	49.6	52.0
		「地球」を柱とする領域	6	69.5	66.5	66.7
評価の観点	知識・技能	8	57.6	55.7	55.3	
	思考・判断・表現	9	60.4	57.8	58.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	11	58.1	55.4	54.7	
	短答式	4	70.8	69.1	69.7	
	記述式	2	41.1	40.3	45.2	



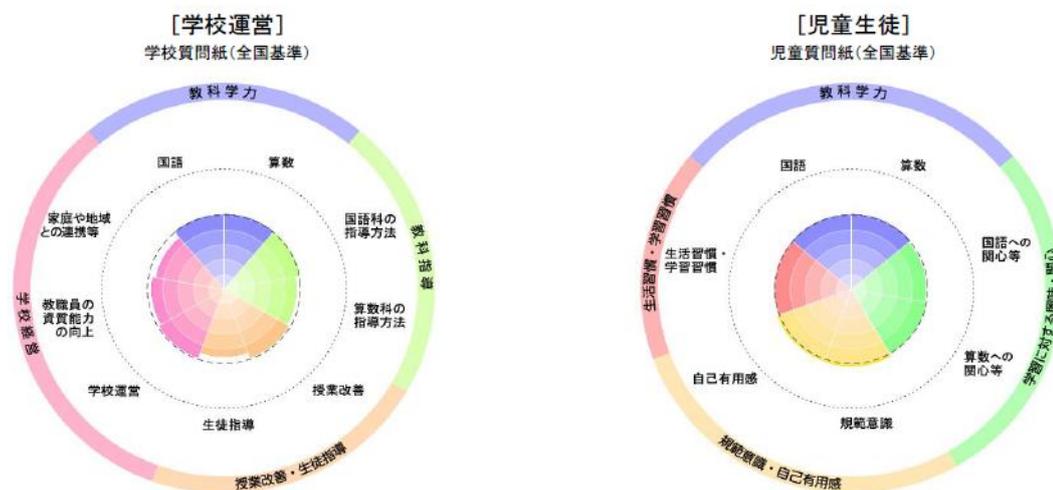
【理科】考察

- ・本市の平均正答率は、県・全国平均をいずれも上回っており、全体として基礎的な知識・技能の定着が図られていることがうかがえる。特に「地球」に関する領域では高い正答率を示しており、観察や既習事項を基にした理解が比較的良好である。
- ・領域別に見ると、「エネルギー」「粒子」に関する事項では、県・全国を上回る結果であり、実験を通して現象を捉え、結果を理解する力が一定程度身に付いている。一方、「生命」に関する事項では全国平均をやや下回っており、条件を基に新たな問題を見いだす力に課題が見られる。
- ・問題形式別では、短答式・選択式の正答率が高く、知識を想起したり、結果から適切な選択をしたりする問題に強い傾向が見られる。実験方法の設定や結果の予想に関する問題でも比較的良好な成果が確認できる。
- ・一方で、記述式問題の正答率は県・全国と同様に低く、特に実験結果や差異点を基に理由や新たな課題を文章で表現する問題に課題が顕著である。これは、科学的な根拠を整理し、筋道立てて説明する力が十分に育成されていないことを示している。
- ・総括すると、本市の児童は理科の基礎的な知識・技能や選択的に判断する力に強みをもつ一方、考察や説明を言語化する力に課題がある。今後は、実験結果を基に理由や結論を自分の言葉で表現する活動を充実させ、思考・判断・表現の力をバランスよく育成していくことが求められる。

(2) 学校質問調査・児童質問調査

【全国との比較】※左：学校質問紙 右：児童質問紙

学校数	児童数
18	1,099



【傾向と分析】

<学校質問>

・本市の児童は、授業において自らの考えを表現する力や主体的に学習に取り組む姿勢が県・全国と比較して高い水準にある。特に、課題解決に向けた自発的な取組や発表に向けた表現の工夫に関する項目で高い割合を示しており、本市における日頃の授業改善の成果が表れている。児童が自ら考え、表現することを重視した指導が効果的に行われていることがうかがえる。

・ICT機器の活用やサポート体制に関する設問でも、本市は全国平均を上回っている。教職員と家庭との連絡においてもICT機器が積極的に活用されており、教育のデジタル化が着実に進展している。また、ICTを活用した学習活動に対して必要な支援が整っていることから、児童の学びを多面的に支える環境が構築されていると評価できる。

・発達障害を含む障害のある児童に対する合理的配慮に関する項目では、本市は県・全国平均を上回っており、特別支援教育における取り組みの充実がうかがえる。個別の特性に応じた支援が意識され、保護者の意向も踏まえた指導が実施されていることは、インクルーシブな教育環境づくりに寄与しているといえる。

・一方で、地域や社会の問題を学習に取り入れる実践や、地域住民との協働活動の実施割合が県・全国平均を下回っている点は今後の課題である。これらの活動は、児童の視野を広げ、実社会とのつながりを実感させる機会となるため、学校と地域との連携をさらに強化し、教育活動の幅を広げていくことが求められる。

<児童質問>

・本市の児童は、国語・算数・理科いずれの教科においても「授業内容がよく分かる」と回答した割合が県・全国平均と同等または上回っており、学習内容の理解は十分に進んでいることがうかがえる。特に理科では「得意」「内容が分かる」ともに全国平均を大きく上回っている点が特徴的である。今後、各教科ともわかりやすい授業を目指して授業改善に取り組んでいくとともに、引き続き成功体験を積み重ねながら、自己肯定感や学習意欲の向上を図っていきたい。

・ICT 機器の授業での使用頻度については、本市は県・全国の平均を大きく上回る結果となり、デジタル機器を効果的に活用した授業が定着していることが分かる。さらに、「課題解決に向けて自ら考え取り組む」や「学んだことを振り返って次に生かす」といった設問でも県や全国と同程度の高い肯定率が見られ、児童が主体的・内省的に学習に関わっている様子がうかがえる。今後は ICT の活用をさらに深化させ、協働的な学びや探究的な活動へとつなげていくことが求められる。

・「いじめはいけないと思う」「人を助ける」「自分にはよいところがある」など、社会性や自己肯定感に関する設問では、いずれも本市児童の肯定率は県・全国平均と同程度か上回っている。また、「先生が自分のよいところを認めてくれる」と感じている児童も多く、温かい人間関係の中で、自他の価値を尊重する姿勢が育まれていることが分かる。道徳や学級活動を通じた心の教育が効果的に機能していることを示しており、今後も対話的・体験的な学習の継続が望まれる。

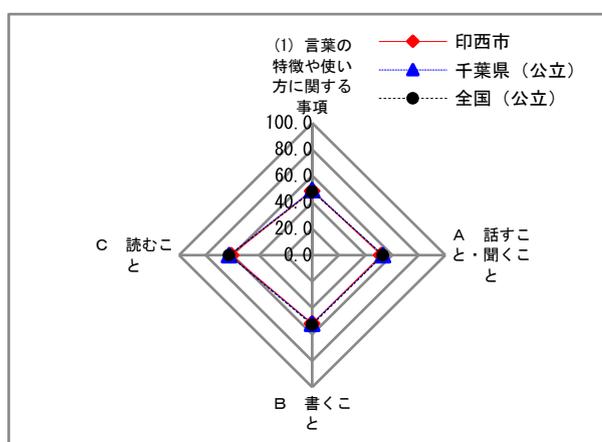
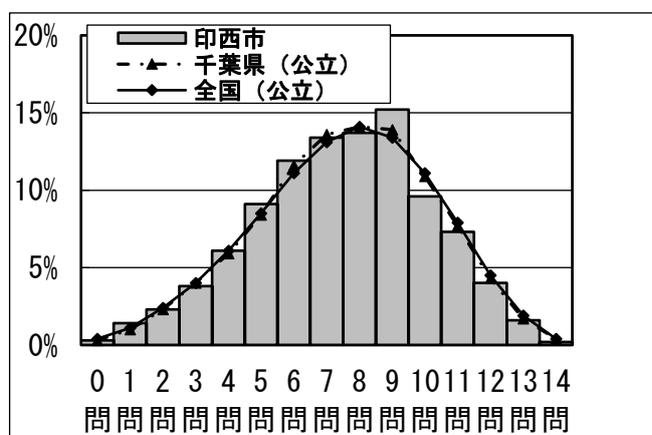
・「毎日朝食を食べている」「毎日同じくらいの時刻に寝ている」といった生活習慣に関する設問では、本市は県・全国平均を上回っており、健康的な生活リズムが確立されていることが分かる。このような基本的な生活習慣は、学習や情緒の安定にも良い影響を与えていると考えられる。一方で、睡眠時間のばらつきや学びへの集中を維持する観点からは、引き続き家庭との連携を図りながら、生活リズムの安定化と健康意識の向上を目指していくことが課題となる。

3 中学校調査

(1) 教科に関する調査【全国・千葉県との比較】

【国語】集計結果

対象生徒数		印西市教育委員会	千葉県（公立）	全国（公立）		
		991	43,450	870,560		
分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）			
			印西市	千葉県（公立）	全国（公立）	
全体						
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	48.6	49.1	48.1
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	4	51.9	53.1	53.2
B 書くこと		5	51.9	52.0	52.8	
C 読むこと		3	61.0	62.5	62.3	
評価の観点	知識・技能	2	48.6	49.1	48.1	
	思考・判断・表現	12	54.2	55.0	55.3	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	8	63.5	64.4	63.9	
	短答式	2	75.1	74.7	73.6	
	記述式	4	22.4	23.5	25.3	



【国語】考察

・本市の平均正答率は、全体としては県・全国をやや下回る水準であった。学習指導要領の領域別に見ても、すべての領域において県・全国と同程度か、わずかに下回っており、国語科全体として基礎的な力の定着に課題があることがうかがえる。

・問題形式別に見ると、短答式では県・全国を上回る正答率を示しており、文章中の情報を的確に捉え、簡潔に答える力は一定程度身に付いていると考えられる。一方で、選択式では県・全国とほぼ同程度、記述式では下回っており、理解した内容を自分の言葉でまとめ、表現する段階に課題があることが明確である。

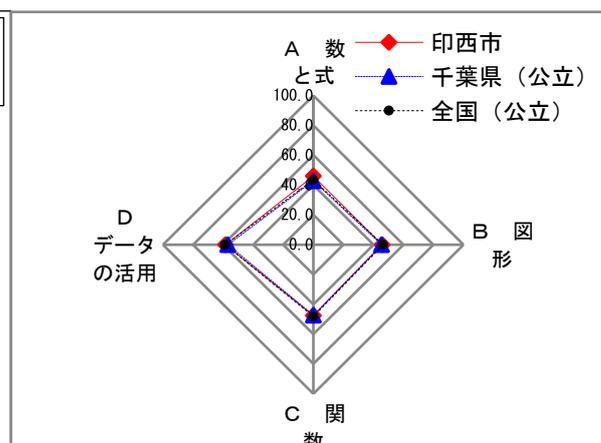
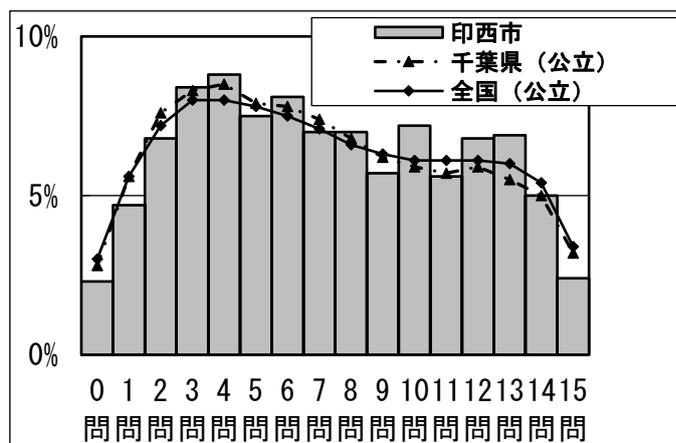
・「読むこと」では、登場人物の設定や具体的な内容理解を問う問題において比較的高い正答率であるが、全体としては県・全国を下回っている。文章の一部に着目した理解はできていても、文章全体の構成や展開を踏まえて捉える力や、その理解を根拠として説明する力が十分とは言えない状況がうかがえる。

・特に記述式問題では「根拠を明確にして説明する」「資料や文章構成を踏まえて自分の考えを書く」といった設問において正答率が低く、設問の条件を整理した上で必要な情報を取捨選択し、論理的に文章化する力が十分に育成されていないことが要因として考えられる。何を書くかは理解していても、どのように書くかという表現面でつまづいている生徒が多いことが本市の特徴的な課題である。

・今後は、読解で得た内容を基に、自分の考えを根拠とともに言語化する学習を意図的に位置付けていく必要がある。設問の条件や問いの意図を確認する活動や、解答例を基に文章構成を捉えさせる指導を通して、記述の型を意識させることが求められる。また、短い文量で根拠を示す記述から段階的に表現の幅を広げていくことで、思考・判断・表現力の着実な向上を図ることが重要である。

【数学】集計結果

対象生徒数		印西市教育委員会	千葉県（公立）	全国（公立）	
		992	43,464	871,097	
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			印西市	千葉県（公立）	全国（公立）
全体		15	49	47	48.3
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	45.9	42.8	43.5
	B 図形	4	45.9	45.5	46.5
	C 関数	3	47.6	47.3	48.2
	D データの活用	3	58.4	56.8	58.6
評価の観点	知識・技能	9	54.6	53.5	54.4
	思考・判断・表現	6	39.8	37.8	39.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	3	55.5	54.6	54.0
	短答式	7	51.9	50.5	52.0
	記述式	5	40.2	38.2	39.6



【数学】考察

・本市の平均正答率は、県・全国と比較して概ね同程度、また一部ではそれを上回る水準にあり、全体としては標準的な到達が見られる。特に基礎的な知識や技能を問う内容においては、県平均を上回っていることから、日常の授業を通じた基礎・基本の定着が一定程度図られていると考えられる。

・領域別に見ると、「数と式」では、県・全国を上回る結果となっており、数量の関係を式で表したり、計算処理を通して問題を解決したりする力が比較的安定して身に付いている。一方、「図形」「関数」「データの活用」では、県との比較では一定の成果が見られるものの、全国水準にはやや及ばない状況であり、概念の理解を深める指導の充実が求められる。

・問題形式別では、選択式や短答式において、県・全国と同程度またはそれを上回る結果が見られ、基本的な知識・技能を活用する力は概ね定着している。記述式の問題については、全体として正答率は高いとは言えないものの、本市は県・全国を上回っており、自らの考えを根拠を明確にして説明する力が一定程度育成されているといえる。今後は、説明の論理性や表現の的確さを高めていくことが課題である。

・評価の観点別に見ると、「知識・技能」は県・全国と同水準の到達が見られ、「思考・判断・表現」においても県・全国を上回る結果となっている。ただし、いずれの観点においても十分な到達とは言えず、より深い理解や的確な表現につなげる指導が必要である。

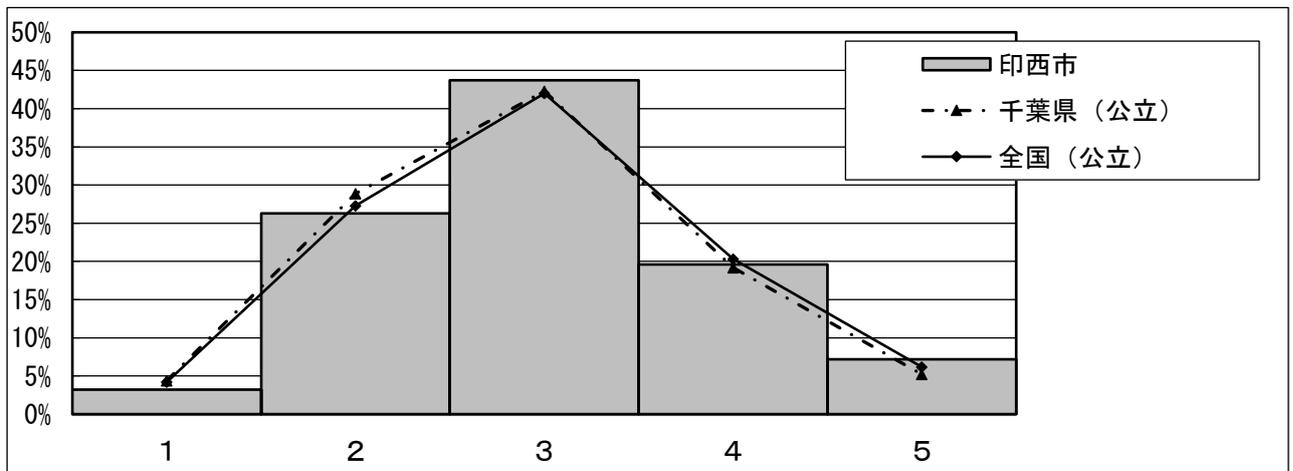
・今後は、基礎的な知識・技能の定着を基盤とし、それらを活用して考え、説明する学習活動を授業の中に意図的に位置付けていくことが重要である。考えの過程を言葉や式で表現する機会を充実させることで、全国水準を意識した学力の一層の向上を図っていきたい。

【理科】集計結果

IRT スコア集計値

	平均IRTスコア	標準偏差	パーセンタイル値				
			10%	25%	50%	75%	90%
印西市	510	119.7	376	428	501	573	660
千葉県（公立）	496	120.1	357	417	488	565	640
全国（公立）	503	124.0	361	422	495	572	652

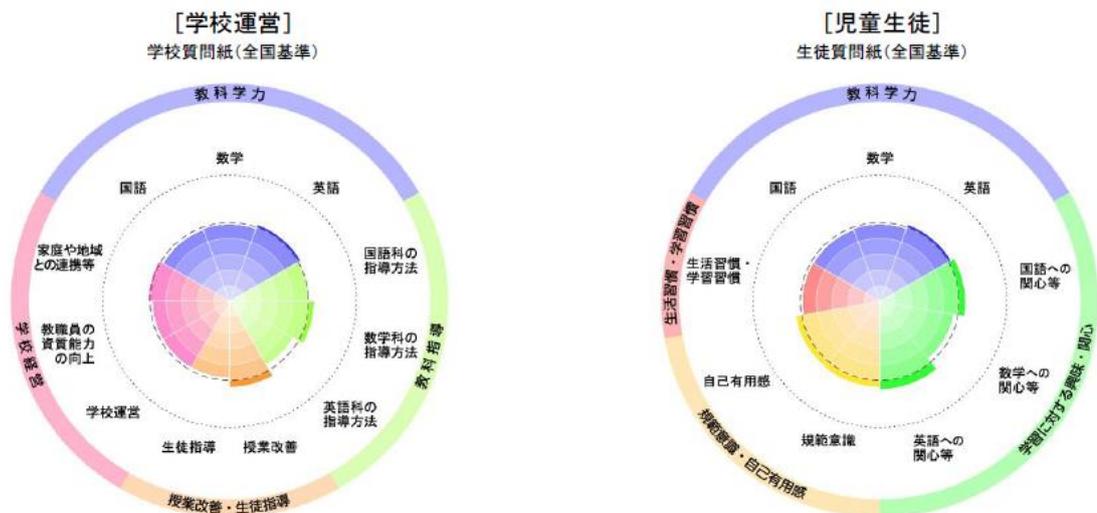
IRT バンド分布グラフ（横軸：IRT バンド 縦軸：割合）



(2) 学校質問調査・生徒質問調査

【全国との比較】※左：学校質問 右：生徒質問

学校数	生徒数
9	917



【傾向と分析】

<学校質問>

・本市では、数学・理科において観察や操作、思考の過程を重視した指導が実施されており、各項目で県や全国を上回る高い割合を示している。これにより、生徒が自ら問題を見いだし、その考えを論理的に説明する活動を通して、思考を深めていく授業が行われていることがうかがえる。特に、学びを振り返る活動を重視した理科の指導からは、探究的な学習姿勢の育成に力を入れていることが読み取れる。

・国語科の回答結果を県や全国と比較すると、学習の改善点を示す指導や、読み手を意識して文章を整える指導には課題が残っている。一方、話し合いや発表では、自分の考えを的確に伝える力が育成されている。今後は、落ち着いた学習環境のもと、これらの力を生かしながら表現力の向上を図り、課題解決に向けた指導の充実を図っていきたい。

・ICTを活用した校務の効率化や、家庭学習に関する指導の項目では、いずれも100%と非常に高い結果を示しており、校内での業務改善や学習支援体制の充実がうかがえる。一方で、ICTの活用に関する支援体制では全国平均を下回っており、今後はサポート体制の強化や活用方法の共有を通じて、教育の質をさらに高めていく必要がある。

・生徒や地域の実態に基づいた教育課程のPDCAサイクルの確立や、近隣小学校との教育課程の接続、教科における共通目標の設定などの取り組みは、県・全国と比較してやや低い状況にある。こうした課題を踏まえ、今後は主体的・対話的で深い学びの視点から、生徒が自ら課題を設定し、計画的に学びを進める力を育成するため、授業改善を一層推進していくことが求められる。

<生徒質問>

・国語や数学について、「授業の内容がよく分かる」と回答した割合は、県や全国平均に比べやや低い傾向が見られた。また、当該教科を「好き」とする生徒の割合も全国平均を下回っている。教科内容の理解と興味関心の双方において課題が認められるため、より主体的に学べる授業展開や、学びの楽しさを実感できる指導の工夫が求められる。

・理科については、「授業の内容がよく分かる」とする生徒が76.1%と県・全国平均を大きく上回っている。これは、本市における理科授業での視覚的・体験的な学習やICT機器の活用が、理解を助けている可能性がある。今後はこの傾向を継続させるとともに、他教科への応用も視野に入れたい。

・「ICT機器を週3回以上使用」と答えた割合が90.4%と、県・全国平均を大きく上回っている点は特筆に値する。ICTの積極的な活用が授業理解や興味・関心の向上に寄与していると考えられる。今後はその活用の「質」にも着目し、単なる使用頻度だけでなく、思考力や表現力を育むための活用をさらに推進したい。

・「自分にはよいところがある」(85.1%)、「先生は自分のよいところを認めてくれている」(93.4%)とする回答は、県・全国平均と同程度か上回っており、おおむね良好な水準で維持されていることがうかがえ、教師との関係も良好であることが示されている。また、「人が困っているときに進んで助ける」(91.8%)などの協働的態度も高く、日頃の道徳教育や学級活動等が効果的に働いていることが推察される。

・「毎日同じくらいの時刻に寝ている」と答えた生徒は76.1%で、県・全国平均を下回っており、昨年度に引き続き生活リズムの乱れが懸念される。学習効果を最大化するためにも、家庭と連携した生活習慣の見直しや健康教育の強化が必要である。

・調査全体から、ICT活用や理科授業における理解度、生徒と教師との信頼関係といった面で顕著な成果をあげている。一方で、教科への学習意欲や生活習慣に課題が見られることから、学びに対する内発的動機付けや健康管理の支援を意識した指導の工夫・改善が今後の課題となる。